

式 辞

吹く風もいつしか柔らかくなり、今日の日を待っていたかのように桜の花が咲き始めました。この良き日に、たくさんの保護者の皆様にご臨席いただき、卒業証書授与式が挙行できますことを、たいへんうれしく思います。

本日、小学校六年間の課程を修了し、須賀小学校を巣立ちゆく二十四名の皆さん、卒業、おめでとう。

6年間の様々なことを思い出していると思います。その中でも、6年生として過ごしたこの1年間は、新型コロナウイルスの影響で、今までにない特別な1年になりました。

4月に学校が始まりませんでした。6月によりやく再開されてからも、常にマスクをつける、給食は黙って前を向いて食べる、友達と近づきすぎないように気をつける。それまでの学校生活とは違ったやり方になりました。市内小学校体育大会、全校徒歩遠足、様々なことが中止になりました。宿泊での修学旅行もできなくなりました。そんな中でも日帰りで鴨川シーワールド、鋸山にみんなで行けたのは、よい思い出になったことでしょう。年が明けてからは、千葉県を含む地域に再び緊急事態宣言が出されました。市内の学校で感染者が出たことを受け、楽しく遊んでいた長縄とびも、行わないことになりました。皆さんには多くのがまんをしてもらった1年でした。

そんな中でも、皆さんが、日々、明るく楽しそうに過ごしている姿を見て、私は心が救われました。そして、皆さんが学校の役に立ちたいと、努力を続ける姿はたいへん立派でした。

卒業していく皆さんに、言葉をひとつ贈ります。「井の中の蛙大海を知らず」という言葉です。その意味は「井戸の中にいる蛙は、井戸の中の世界がすべてだと思っていて、大きな海が存在していることも知らない。今見えている世界がすべてだと思っていて、他の見方や考え方があることを知らない」という言葉です。

皆さんは、暑い夏が終わると、秋になり、やがて寒い冬から春へと変わっていくことを当たり前だと思っと思っていますよね。機会がなくて、皆さんには話していなかったと思いますが、私は三年間マレーシアという国で生活していました。マレーシアは赤道に近い南の国で、一年中夏、夏しかありません。4つの季節が来ることのように、それまで当たり前だと思っていた様々なことが、実

は当たり前ではなかったと、マレーシアでの3年間の生活経験から、気付きました。狭い井戸の外に出てみると、新しい世界を知るだけでなく、それまで暮らしていた井戸の中が、どうであったかをあらためて知ることができます。

皆さん、井戸の外のことを知りましょう。様々な体験をしてみましょう。いろんな人と話をしてみましょう。本を読みましょう。学習しましょう。それまで見えなかったものが見えてきます。小さな井戸の中のかえるであってはいけません。

「井の中の蛙大海を知らず」という言葉から、もう一つ伝えたいことがあります。小さな井戸の中の蛙にならないよう、様々なことをしても、所詮、私たちは井の中の蛙だということです。大きな海を知り尽くすなんてできないのです。

皆さんは、やがて大人になり社会に出ていくでしょう。常に、新しい世界を知ろうという向上心と、自分はまわりのことしか知らないちっぽけな蛙だという、謙虚な気持ちを持って、立派に活躍できることを心から願っています。

5年生の皆さん、明日からは、皆さんが最上級生です。6年生の素晴らしかったところを、しっかりと受け継ぎ、よりよい須賀小学校を作っていきます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。ここまで育ててこられるまでの様々なことを振り返ると、感慨もひとしおのことと思います。

間もなく、心身ともに大きく成長する中学校生活が始まります。たくましさを増す反面、広い視野から見ることができず、まちがった判断をしてしまうこともありがちです。まだまだ支援を必要としています。保護者の皆様の温かい見守りのもと、大切なお子様的心優しく、立派に成長されますよう、心より願っております。

結びに、卒業生24名、それぞれの未来が、輝かしいものであることを願って、式辞といたします。

令和三年三月十九日

匝瑳市立須賀小学校

校長 角田 直彦